

## 論文審査結果の要旨

論文提出者	(氏名) 三輪佳愛
論文審査委員	主査 玉置幸雄 印
	副査 山野貴史 印
	副査 池邊哲郎 印
論文題目	口唇閉鎖力および切歯被蓋関係が構音時の口唇閉鎖に与える影響
<p>(論文審査結果の要旨)</p> <p>本論文は、小児期の口腔機能発達不全症を診断する際に、1つの基準である構音機能の評価を試み、その客観的な評価方法を確立するための臨床的根拠を提供することを目的としている。</p> <p>語音をつくる際の口腔機能を客観的に評価するため、両唇音構音時の通常とは異なる動作である「歯唇音」の出現に着目したところに研究の新規性が認められる。Hellmanの歯齢ごとに歯唇音の有無による2群が設定され、口唇閉鎖力、オーバージェットおよびオーバーバイトが計測された。口唇閉鎖力の比較では、側方歯交換期において両唇音構音時の口唇非接触群が有意に低く、オーバージェットは同群で有意に大きい結果を得た。加えて、同群に対する口唇閉鎖力、オーバージェットの関与を回帰分析で調べたところ、オーバージェットが大きいほど、また口唇閉鎖力が小さいほど両唇音構音時に非接触群となりやすいことが示された。これらは、臨床で経験的に予想されるところであるが、歯唇音の判定を介して具体化した点が評価される。、さらに、ROC解析において、オーバージェットと口唇閉鎖力のカットオフ値が得られ有意であったことから、オーバージェットが大きく口唇閉鎖力が弱い場合に口唇閉鎖を行っていない可能性が高いことが本研究で明らかとなった。</p> <p>以上から、口腔機能発達不全症における口腔機能の新しい評価方法を確立する可能性が示されたものと考えられ、学位論文としての高い価値を認めるものと判定した。</p>	